

2019年10月11日
株式会社オンワードホールディングス
秘書・広報部

～あなたのオンワードの服が、「希望をつなぐ毛布」に～ オンワードの回収衣料品から生産したリサイクル毛布を モンゴル国の孤児院と寄宿寮の子どもたちへ寄贈

株式会社オンワードホールディングス(本社:東京都中央区 代表取締役社長:保元 道宣)は、当社の回収衣料品から生産したリサイクル毛布を、日本赤十字社の協力のもと、モンゴル国の孤児院と寄宿寮の子どもたちへ 2,000 枚、緊急救援用の備蓄として 2,000 枚をモンゴル赤十字社に、10月11日(金)寄贈しました。

当社では、“この地球を想う。この服をまとう。”を環境コンセプトに掲げ、経営の重点施策の一つとして環境経営を推進しています。その一環として、ご愛用いただいた当社の衣料品をお客様から引き取り、可能な限りリユース・リサイクルすることを通じて、衣料品循環システムの構築を図る「オンワード・グリーン・キャンペーン」を、春と秋の年 2 回定期的に実施。回収した衣料品の一部からリサイクル毛布などを生産し、日本赤十字社の協力のもと国内外の被災地や開発途上国へ寄贈しています。

第 12 回目の支援活動先であるモンゴル国は、世界で最も冬が寒い国の一つと言われています。季節による気温の差が激しい内陸性の気候で、夏は気温が 40℃近くまで上がる一方、冬は氷点下 30℃以下まで下がります。夏の干ばつに続き、豪雪や氷点下 30℃以下の極寒の冬が訪れるモンゴルでは、この国特有の「ゾド」と呼ばれる自然災害の被害が 2000 年以降増加傾向にあります。

今回の寄贈先であるダルハン・オール県はモンゴル国の中心部に位置します。この地域には、「ゲル」と呼ばれる壁にフェルト(動物の毛を使った不織布)が使われる伝統的な移動式住居に住んでいる方々があります。「ゲル」の中は、暖房を常時つけていれば温かいのですが、経済状況が厳しい世帯は暖房を常に使用することができず、毛布を何枚も被り寒さをしのいでいます。この度の寄贈では、孤児院と寄宿寮の子どもたちにリサイクル毛布 2,000 枚を配付し、極寒の冬を乗り切るための生活改善物資として活用していただく予定です。また、緊急救援用の備蓄として、リサイクル毛布 2,000 枚をモンゴル赤十字社に寄贈しました。

なお、今秋の「オンワード・グリーン・キャンペーン」は、全国の百貨店・ショッピングセンターで 8 月 23 日(金)から順次実施しており、約 8 万人のお客様から約 42 万点の衣料品をお引き取りできる見通しです。この回収衣料品の一部から新たにリサイクル毛布を生産し、今後も日本赤十字社の協力のもと、国内外の被災地支援などに活用していく予定です。



ーリサイクル毛布寄贈実績ー

第 1 回	2010 年 5 月	バングラデシュ	3,000 枚	第 8 回	2015 年 10 月	ベトナム	2,000 枚
第 2 回	2011 年 2 月	カザフスタン	3,300 枚		2016 年 4 月	ベトナム	2,000 枚
第 3 回	2011 年 9 月	日本(東日本大震災被災地)	1,000 枚	第 9 回	2016 年 2 月	ネパール	2,000 枚
第 4 回	2012 年 3 月	中国	2,200 枚	第 10 回	2017 年 10 月	インドネシア	4,000 枚
第 5 回	2012 年 9 月	モンゴル	2,000 枚	第 11 回	2018 年 11 月	インド	4,000 枚
第 6 回	2013 年 10 月	ネパール	4,000 枚	第 12 回	2019 年 10 月	モンゴル	4,000 枚
第 7 回	2014 年 10 月	ミャンマー	4,000 枚				累計 37,500 枚

※第 1 回～第 2 回は「UNHCR」を通じて寄贈。第 3 回以降から「日本赤十字社」を通じて寄贈。



寄贈式の様子



毛布を手にする子供たち



毛布を手にする子供たち